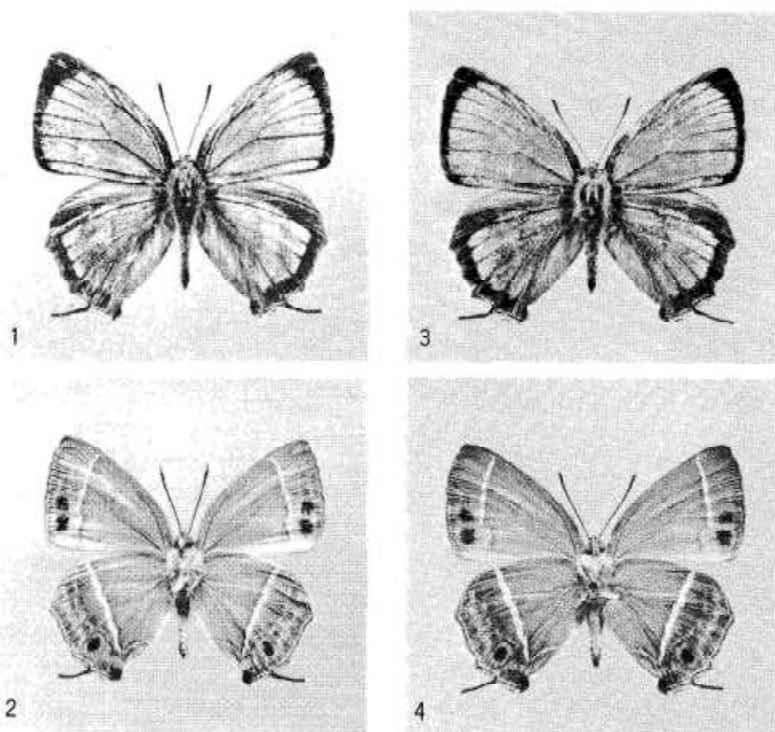


岡山県下でヒサマツミドリを採集

中 村 具 見*



[写真]

苫田郡加茂町倉見産
ヒサマツミドリシジミ

1. ♂ (筆者採集)
2. 同上裏面
3. ♂ (渡辺和夫氏採集)
4. 同上裏面

ゼフィルスと称されるミドリシジミ族の中で、かつては最稀種とされ、生活史の解明も最後となったヒサマツミドリシジミは、ウラジロガシ、アカガシなど主に常緑カシ類を食樹とすることが判明して以来、次々に新産地が発見され、本州中部以西、四国、九州の暖帯常緑広葉樹林帯上部を中心に、局地的ではあるが広く分布することが明らかとなった。しかしながら、岡山県下においてはこれまで精力的に調査が行われてきたにもかかわらず、成虫、卵ともに全く発見されることなく、本州西部における唯一の未記録県となってい

た。筆者も、新見市北部、勝山町、奥津町、勝北町など県北の山地帯でウラジロガシが多く見られる溪谷沿いを中心に何回か調査を試みたが確認することはできず、本種が県下に分布している可能性は低いものと考えていた。ところが、1984年7月3日に苫田郡上齊原村の岡山県立森林公園内のブナ林中で、岡山県立短期大学の伊藤國彦氏により1♀が採集され、県下初記録としてカラー生態写真とともに山陽新聞紙上にも大きく報じられ、話題となったのは周知のとおりである。そして、ちょうどその1週間後、森林公園から東へ約15kmほど離れた苫田郡加茂町においてチョウの分布調査を行っていたところ、偶然にも本種を採集すること

* 〒719-11 総社市真壁1048

ができたので報告しておく。

Chrysozephyrus hisamatsusanus NAGAMI et ISHIGA

ヒサマツミドリシジミ

♂, 苫田郡茂町倉見 (950m), 10. VII. 1984,
筆者並びに渡辺和夫氏採集

採集地は森林公園の場合と同じく、標高900mから1000mのブナが優占するいわゆる温帯落葉広葉樹林帯である。午後2時頃、沢沿いで活発に占有飛翔を繰り返すメスアカミドリを採集していた際に、やや離れた陽当たりのよい斜面上部の低木上に敏速に飛ぶゼフを発見、採集したところ本種であった。続いて近くにあるスギの木の枝先を占有していた♂を渡辺氏が採集し、この付近で計5♂を得ることができた。いずれも汚損しており、発生後10日から2週間程度は経過しているものと思われた。

以上のように、これまで県下未記録であったヒサマツミドリは、1984年になって漸く岡山県からも発見されたわけである。県下では、今のところわずかの成虫が、北部の中国山地に局地的に残されたブナ林中で得られているだけであるが、他府県においてもブナ、イヌブナ、コナラ、ミズナラなど常緑カシ以外のブナ科

各種から卵、幼虫が発見されていることから、ブナ林が発生地であると同時に成虫の生息地となっているとも考えられる。しかしながら、本種には、成虫の見られる場所と発生地と考えられる場所とがかなり離れていて、成虫に移動性が認められる場合もあり、従って県下で得られた個体が、より低所の常緑カシ類のある発生地からブナ林へ飛来した可能性も否定できないように思われる。いずれにしても、中国山地帯の高所で発見された本種については、その生態に不明点が多く、今後、食草の確認などさらに詳しい調査が望まれる。

末筆ながら、調査に協力されデータの発表を許された渡辺和夫氏並びに森林公園での採集状況等について御教示いただいた伊藤國彦氏には深く感謝する次第である。

参考文献

- 1) 伊藤國彦 (1984) 岡山県で発見されたヒサマツミドリシジミについて、月刊むし (164): 34
- 2) 福田晴夫ほか (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 (Ⅲ) 保育社、大阪

川上村明連溪谷のシジミチョウ

渡 辺 和 夫*

I はじめに

最近では観光地として有名な蒜山高原は、県下有数の好採集地として古くから知られており、訪れる人も多いが、過去の報告を見るとその採集地は単に「蒜山」として簡単に表現される場合がほとんどであったため、この地域における蝶の分布の詳細については、現在でも意外に不明確な部分が多いと思われる。

そこで、筆者は1982年から3年間、同地の明連溪谷に的を絞ってシジミチョウ科を中心に分布調査を行い、一応の記録をまとめることができたので、その概要を報告する。

調査地域 岡山県真庭郡川上村上福田明連溪谷 (図 I: 太線内の部分)

調査日時等

1982年6月27日 10:00~13:00 晴時々曇り
1983年7月3日 6:30~8:00 小雨

1984年5月8日 14:00~15:00 晴
1984年5月12日 13:00~15:00 晴
1984年6月30日 16:00~18:30 曇り
1984年7月1日 7:00~9:00 小雨後曇り

なお、筆者自身が採集又は目撃して確認できたものについてはそのデータを示したが、一部は中村具見氏の資料をお借りした。氏には深謝する。



* 〒719-11 総社市三輪203

II 調査地域の概要

明連溪谷は、岡山県北部・鳥取県境にそびえる擬宝珠山 (1,112m) を源とする明連川によって刻まれた溪谷で、蒜山三座に連なる皆々山 (1,159m) の西南麓に位置しており、すぐ西側の尾根を通る蒜山大山有料道路とはほぼ平行に走っている。

上流部は谷幅が狭く、大部分はスギ、ヒノキの造林地となっているが、一部に温帯落葉広葉樹林 (二次林ではあるが) が残されている。また、下流域では次第に谷床の平坦面が広くなり、牧草地や畑になっている。

今回は、上流部よりの比較的自然度の高い植生の温存された地域を主に調査した。ごく狭い範囲に残された温帯落葉広葉樹林は、ミズナラ、コナラ、クリ、ハルニレ等を主体とし、ブナ、トチノキ、マンサク、ヤマザクラ、ホオノキ等が見られ、林床にはササが密生している。

III 採集記録

1. *Iratsume orsedice* BUTLER ウラクロシジミ

3♂, 30. VI. 1984 採集確認

時期的に遅かったせいか、かなり破損した個体ばかりだった。頭上にミズナラが被さるような場所には少なく、開けた場所を好んで飛ぶ。個体数はやや少ないようである。

2. *Japonica lutea* HEWITSON アカシジミ

2 exs. 30. VI. 1984 目撃確認

夕刻飛翔中のものを目撃した。

3. *Wagimo signata* BUTLER ダイセンシジミ

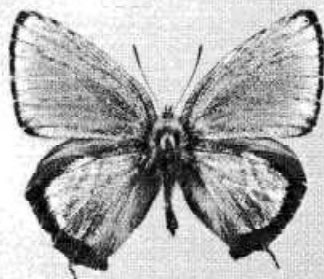
6卵 (ミズナラより), 5. V. 1984 中村具見採卵 (1♂ 1♀, 15~16. VI. 1984羽化)

4. *Antigius attilia* BREMER ミズイロオナガシジミ

1♀, 3. VII. 1983

5. *Antigius butleri* FENTON ウスイロオナガシジミ

1♀, 30. VI. 1984; 1♂, 1. VII. 1984



1

6. *Chrysozephyrus brillantinus* STAUDINGER

アイノミドリシジミ

1♂, 3. VII. 1983 [写真1]

県下に産するゼフィルスの中では、少ないものの1つである。成虫の採集例が少ないのは、活動期が早朝に限られることもその一因であろう。占有位置が約8mと高かったため、採集した個体は少ないが、数頭の個体を目撃した。

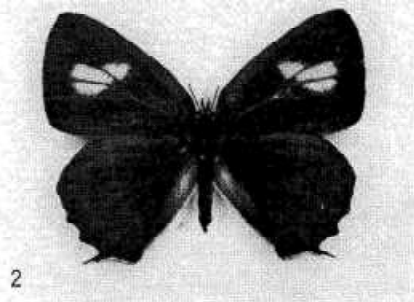
7. *Chrysozephyrus smaragdinus* BREMER

メスアカミドリシジミ

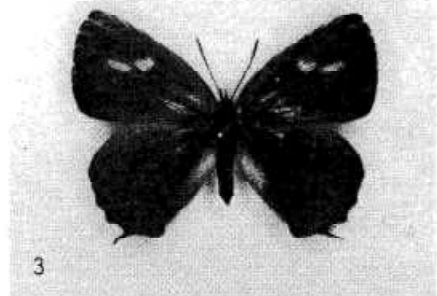
4♂ 2♀, 27. VI. 1982; 1♀, 3. VII. 1983; 2♂ 1♀, 30. VI. 1984; 1♀, 1. VII. 1984

最初に当地を訪れた際には、本種と次種エゾミドリシジミしか採集できなかったが、その個体密度の高さがその後の調査のきっかけとなったものである。占有位置は5~6mで、アイノミドリシジミより若干低い。

♀前翅表のA斑は個体変異が多いと思われるが、参考までに当地で得られたものの中で最もA斑の大きい個体 [写真2] と最も小さい個体 [写真3] を示す。



2



3

8. *Favonius jezoensis* MATSUMURA エゾミドリシジミ

5♂, 27. VI. 1982; 14♂, 30. VI. 1984

7♂ 1♀, 1. VII. 1984

当地に産するゼフィルスの中では、個体数は最も多く、鮮度もよいものばかりだった。占有位置はメスアカミドリシジミと同程度。

9. *Favonius aurorinus* OBERTHUR

ジョウザンミドリシジミ

2♂, 3. VII. 1983; 1♂, 30. VI. 1984; 5♂, 1. VII. 1984

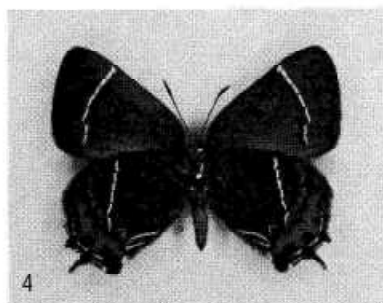
前種に比べると若干採集した個体数は少ないが、天候に恵まれなかったことも影響しているのかもしれない。占有位置は前3種に比べ最も低く採集は容易だが、アイノミドリシジミと同様活動が早朝に限られるため、成虫の採集記録は少ないようである。

10. *Strymonidia w-album* KNOCH

カラスシジミ [写真4]

1♂2♀, 30. VI. 1984; 1♀, 1. VII. 1984

ハルニレが相当数あり、個体密度は高いものと思われる。♀は新鮮だったが♂は若干汚損していた。当地では1979年に1♂の記録がある²⁾。



11. *Callophrys ferrea* BUTLER コツバメ

1♂, 8. V. 1984

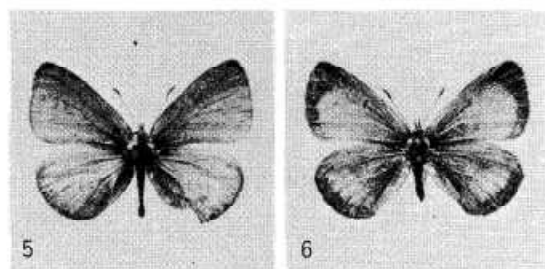
12. *Celastrina argiolus* LINNAEUS ルリシジミ

多数, 8. V. 1984 目撃確認

13. *Celastrina sugitanii* MATSUMURA

スギタニルリシジミ [写真5:♂] [写真6:♀]

1♂2♀, 12. V. 1984



トチノキの大木の下に密生しているササの葉上から飛び出したものを採集した。

1984年は厳冬の影響で、春先の蝶の発生が例年よりも2-3週間程度遅れるという異常なシーズンであったが、本種の場合もその例外ではなかったようで、比較的新鮮な個体が得られた。例年なら4月下旬の発生であろう。

14. *Plebejus argus* LINNAEUS ヒメシジミ

2♂1♀, 30. VI. 1984

蒜山産の本種は他地域のものとは比べ、若干大型となる傾向があるようだ。

Ⅳ そ の 他

調査活動を続けているうちに、1点おもしろい事実気付いたので報告しておく。

1984年6月30日夕刻、活動期のエゾミドリの採集後のことである。附近の樹を叩いていると、トチノキからメスアカミドリ♂が飛び出した。活動期は過ぎているはずだが、と思いながらじっと見ていると、どうやらトチノキの実へ吸汁に来ているようだ。夕闇迫る中、エゾミドリも来る、カラスシジミも来る、とうとうジョウザンミドリまで飛来した。クワの実にゼフが集まるという報告はあるが⁴⁾、トチノキの実へ集まるのは報告がないようだ。採集品は次のとおり。(本文と重複、種名は略記)

1984年6月30日 エゾミドリ 6♂

メスアカミドリ 2♂1♀

ジョウザンミドリ 1♂

カラスシジミ 1♂1♀

1984年7月1日 エゾミドリ 7♂

メスアカミドリ 1♀

カラスシジミ 1♀

活動期を過ぎたものや、活動期に入る前のものが多いようで、活動期には特に♂は占有行動をとるため吸汁には来ないものと思われる。

参 考 文 献

- 1) 石井貞志 (1978) 岡山県の Zephyrus. 月刊むし (84) : 17-22
- 2) 岸清己 (1984) カラスシジミの一産地. みちしるべ (1) : 4
- 3) 倉敷昆虫同好会 (1972) 岡山県の蝶. すずむし (108)
- 4) 鈴木一生 (1979) クワの実に集るゼフィルス. 月刊むし (95) : 18

岡山県のコメツキムシ追録Ⅱ*

渡 辺 昭 彦**

昨年に引続き、新たに岡山県内に分布することが確認できた種を報告すると共に、初報で報告した種の中で種名の変更が必要となった種について訂正・解説する。また、初報において報告した124種の中で4種は文献よりの引用のみによっていたのであるが、内3種については県内産の標本を検査することができ、残る1種については岸井氏の言うように疑問種として処理をすべきと考えられ、一応の区切りがついたのであわせて報告する。

貴重な標本・記録を提供して頂いた植田千弘、金田昌士、光枝洋、三宅誠治、山地治の各氏、文献等いろいろお世話になった岸井尚氏には心よりお礼申し上げます。また、標本写真の撮影にあたっては山地治氏に協力頂いた。

なお、種の番号は前報に引続き通し番号とし、亜科等の取扱いや配列も前報までに準じた。

追加記録種

subfamily AGRYPNINAE サビキコリ亜科

133. *Colaulon miyamotoi tsukamotoi* KISHII, 1956

ハマバオオヒメサビキコリ (Fig. 1 a, b, c)

玉野市出崎, 2♂ 5♀, 29. IV. 1984

(山地治, 渡辺採集)

♀, 9 exs. 29. IX. 1984 (山地治採集)

海浜性の種としてよく知られており、本州・四国・九州の海岸で黒潮の当たるような所に主に分布が知られている。そのような本種が瀬戸内海奥深くまで侵入していることは、次種と共に興味深い。今回の個体は砂浜の中でわずかに泥質がかった所から採集できた。本種は一見、県内に産する同属種のヒメサビキコリに似ているが、後翅が退化しているので区別はたやすい。慣れれば外観での区別も難かしいものではない。なお、今の所県内の海岸ではこの属の種では本種しか得られていない。

134. *Meristhus (Sulcimerus) niponensis* LEWIS, 1894

スナサビキコリ (Fig. 2)

倉敷市黒崎, 1♂, 20. V. 1984 (渡辺採集)

本種も海浜性であるが、一般に稀な種である。また、

前種よりも北方に分布するようで、日本海沿岸に既知産地が多い。なお、この個体は非常にさらさらした清潔な感じの砂の所で得られた。

subfamily NEGASTRIINAE ミズギワコメツキ亜科

135. *Migiwa yotsuboshi* KISHII, 1976

ヨツボシミズギワコメツキ

岡山市大原, (月刊むし-116, 岸井尚, 1984)

苫田郡奥津, (月刊むし-116, 岸井尚, 1984)

本種は筆者らの採集品に基づいて岸井尚氏により発表されたものである。これが原記載以降初の記録であるが、県内河川の中一下流部の河原に産する斑紋を有する本属の種は、大部分本種ではないかと考えられるので今後の検討を要する。岸井の報文中採集者名で兼田とあるのは金田(昌士氏)の誤りである。

また、初報で No. 25 *Migaiwa (N.) quadrillum* として報告した記録は全て本種であるが、詳しくは後で記す。

136. *Neohpdonus kadowakii* KISHII, 1976

カドワキツヤミズギワコメツキ (Fig. 3 a, b)

真庭郡川上村, 16♂ 7♀, 8. VII. 1984

(渡辺採集)

上記の採集個体の内3頭を岸井氏に同定して頂いた。全ての個体は極めて狭い(数m²程度)所よりスウィーピングで得られ、近くに似たような環境が多かり採集を試みたにもかかわらず全く得られなかった。

本種は島根県より記載された種であり、近くの岡山県に産することは不思議ではないが、原記載以降記録はないようである。また、酷似種がいるので同定には注意を要する。

subfamily ATHOINAE ツヤハダコメツキ亜科

137. *Harminius galloisi* MIWA, 1928

ガロアムネスジダングラコメツキ (Fig. 4)

英田郡後山, 1♂, 4. VIII. 1984 (渡辺採集)

後山奥ノ院での灯火採集により得られた。

subfamily HYPNOIDINAE ヒサゴコメツキ亜科

138. *Hypolythus brunneofuscus* (NAKANE, 1954)

チャクロヒサゴコメツキ (Fig. 5)

英田郡後山, 1♂, 3. VI. 1984 (三宅誠治採集)

あまり多いものではない。四国より記載された種である。今回の個体を含めて中国山地東部のものは、四

* 初報 すずむし 114, 追録Ⅰ すずむし119

** 〒701-01 倉敷市上東1050-1

国山地の個体群に比較して体型等いくらかの差異があるようで、小型で前胸が短い。

subfamily CTENICERINAE ヒラタコメツキ亜科

139. *Acteniceromorphus kurofune* (MIWA, 1934)

ミヤマフトヒラタコメツキ

高梁市臥牛山, 1♀, 14. V. 1984 (光枝洋採集)

subfamily MELANOTINAE クシコメツキ亜科

140. *Melanotus (Spheniscosomus) japonicus* OHIRA, 1974

ハネナガオオクシコメツキ

苫田郡泉源, 1♂, 18. VI. 1978 (金田昌士採集)

前回の追録で書き落したものである。割合少ない種である。

subfamily AGRIOTINAE カバイロコメツキ亜科

141. *Chatanayus ishiharai ishiharai* (NAKANE et KISHII, 1954)

ウスカバイロコメツキ (Fig. 6)

総社市三輪, 1♂, 8. VII. 1984 (渡辺採集)

南方系の稀種で、灯火にて得られた。南方系の種では、盛夏期に発生し夜行性でよく灯火に飛来するといったパターンを示すことが多いが、本種もその典型のようである。

142. *Ectinus riginus* (LEWIS, 1984)

クロムナボソコメツキ

新見市千屋, 3 exs. 6. VI. 1984 (光枝洋採集)

九州(原産地)、四国や本州中部以北では多産するが、中国地方の標本はなぜかあまり得ていない。

種名変更等を要する種

25. *Migiwa (Neomigiwa) quadrillum* (CANDEZE, 1973)

ヨツモンミズギワコメツキ

前記したように、初報で示した採集個体は真の本種ではなく、全て No. 135 の *M. (s. str.) yotsuboshi* であった。この点については同定者の岸井尚氏にも確認して頂いたので、ここに訂正しておく。

ところで、真の *M. (N.) quadrillum* も県内より得られているので、改めてここに報告する。

苫田郡倉見, 5 exs. 16. VII. 1980 (渡辺採集)

赤磐郡山陽町, 7 exs. 1. VI. 1977 (渡辺採集)

一見似ている *M. (s. str.) yotsuboshi* ヨツボシミズギワコメツキとは生態的にかなり異なるように思われ、今回示した採集例ではいずれも畑地の地表(砂質ではない)より得られたものであり、県内の採集では未だ河原より得ていない。

113. *Dalopius hirasanus* KISHII, 1966

ヒラナカグロヒメコメツキ

→ *D. bizen* KISHII, 1984

チュウゴクナカグロヒメコメツキ (Fig. 7 a~d)

初報ではヒラナカグロヒメコメツキの名で報告した

のであるが、その後その時の標本を中心として岸井氏により新種として記載されたものである。(基産地は若杉である)

本属の種は、小型で酷似種が多く、同定の難しいグループの一つである。本種も外見上の特徴が少ない上、変異も多く、外見からの同定はたやすくはないが、♂の交尾器には特色があり、これによれば同定はさほど難しくない。県内においては、中国山地部で原生林の保存されているような所では多産する。

初報で引用のみによった種

1. *Tetrigus lewisi* CANDEZE, 1873

オオクシヒゲコメツキ

岡山市金山, 1♀, 1. VI. 1984 (植田千弘採集)

♂, 1♂, 23. VI. 1984 (植田千弘採集)

岡山市竜ノ口山, 1♀, 14. VIII. 1984

(植田千弘採集)

金山の個体は両方共にモミジの朽木中より得られたとのことである。また、竜ノ口山の個体は樹液より得られたとのことである。

51. *Corymbitodes obscuripes* (LEWIS, 1894)

コゲチャホソヒラタコメツキ (Fig. 8)

英田郡若杉, 1♀, 2. VI. 1984 (山地治採集)

割合に知られた種であるが、稀な種のように標本もあまり入手できない。また、近似種との区別は案外難しく、同属の *C. concolor* クロホソヒラタコメツキの西日本産の個体では、関東あたりのものに比べ大型で幅広く明色(足も含めて)なものが多く、本種に似てくるので同定には注意を要する。

90. *Shirozulus bifoveolatus* (LEWIS, 1894)

コガネホソコメツキ

英田郡若杉, 1♂, 24. VI. 1984 (渡辺採集)

ゴトウズルの花より得られた。

114. *Dalopius potagiatius* (LEWIS, 1894)

クロスジヒメコメツキ→疑問種

岸井(1984)³⁾は、本属を総括した中で、本種の確実な分布地は三重県以北の本州であることを示し、岡山県の記録は前記の113. *D. bizen* の誤認ではないかと記している。筆者も今までに県内産本属の標本を200個体以上検しているが、全て *D. bizen* であった。重井他⁶⁾の示した個体は何であるのかは今後の調査によるとしても、とりあえず本種は疑問種としておくのがよいと思う。

参考文献

- 1) 大平仁夫 (1969-1971) 日本のコメツキムシ, 昆虫と自然
- 2) H. OHIRA (1974) New or Little-known Elateridac

(Coleoptera) from Japan. XVIII. Kontyû 42 (1): 24-28

3) T. KISHU (1976) New Negastrinae with Some Notes. Bull. Heian H. S.

4) ——— (1984) The Elaterid beetles of the

Tribe Agriotini from Japan. Bull. H. S.

5) 岸井尚 (1984) 未記録及び珍しいコメツキムシ若干について, 月刊むし166: 21-23

6) 重井博他 (1965) 新庄村の昆虫調査報告 (その2), すずむし14(4)

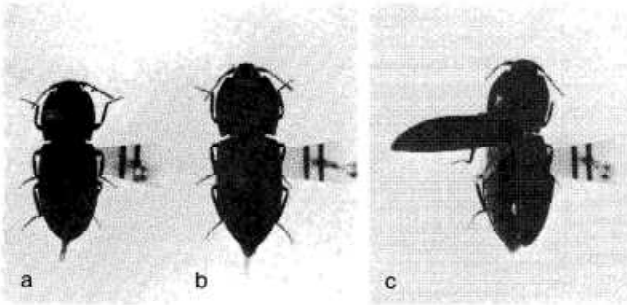


Fig. 1

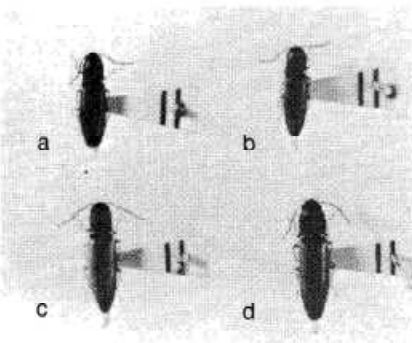


Fig. 7

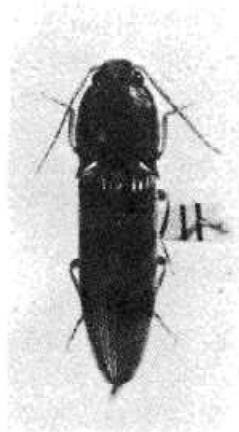
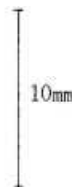


Fig. 4



Fig. 5



Fig. 8



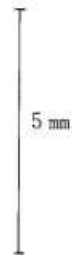
Fig. 6



Fig. 2



Fig. 3



※ 2, 3 は小型種のため縮少が異なる

〔写真説明〕

1. ハマバオオヒメサビキコリ
(a-♂, b-♀, c-♀後翅の退化を示す)
2. スナサビキコリ ♂
3. カドワキツヤミズギワコメツキ (a-♂, b-♀)
4. ガロアムネスジダンダラコメツキ ♂

5. チャグロヒサゴコメツキ ♂
6. ウスカバイロコメツキ ♂
7. チュウゴクナカグロヒメコメツキ
(a-c-♂, d-♀)
8. コゲチャホソヒラタコメツキ ♀

岡山県のカミキリムシ数種の記録

山 地 治

岡山県下から採集されたカミキリムシの内、初記録及び従来記録の少なかったものについて報告したい。記録の発表を許された植田千弘・黒田祐一・那須敏・渡辺昭彦の各氏には御礼申し上げる。学名及び和名については、最近発行された“カミキリ大図鑑(日本鞘翅目学会編)”に従った。学名の前の*印は岡山県初記録種である。

1. *Nothorhina punctata* (FABRICIUS)

ケブカヒラタカミキリ

8 exs. 高梁市臥牛山, 6. IX. 1981, 那須・山地採集

ふいご峠附近のアカマツ樹皮下より。

2. *Encyclops olivacea* BATES テツイロハナカミキリ

2♂ 1♀, 真庭郡中和村津黒山, 2. VI. 1984, 山地採集

ウラジロノキ花上より。

3. **Pidonia matsushitai* OHBAYASHI

マツシタヒメハナカミキリ

1♀, 英田郡西栗倉村若杉峠, 30. VI. 1983, 植田採集; 1♂, 同所, 24. VI. 1984, 渡辺採集; 1♂ 1♀, 同所, 28. VI. 1984,

植田採集; 5♂ 2♀, 同所, 1. VII. 1984, 渡辺採集; 3♂, 同所, 7. VII. 1984, 山地採集

ミヤマイボタ・サワフタギ・フウリンウメモドキ花上で採集した。主に中部山岳に分布する種で、近くでは水ノ山・扇ノ山の記録がある。当地は本種の既知産地の西端に当たる。

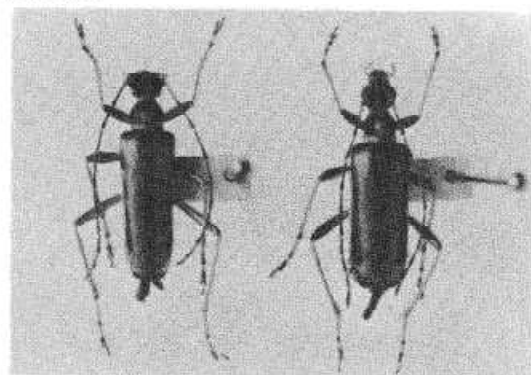
4. *Pidonia maculithorax* PIC

ムネモンヒメハナカミキリ

1♂ 1♀, 英田郡西栗倉村若杉峠, 30. VI. 1983, 植田採集; 4♂ 4♀, 同所, 24. VI. 1984, 渡辺採集; 2♂ 1♀, 同所, 28. VI. 1984, 植田採集; 1♂ 3♀, 同所, 1. VII. 1984, 渡辺採集; 6♂ 5♀, 同所, 7.

VII. 1984, 山地採集; 2♂, 同所, 11. VII. 1984, 植田採集

ミヤマイボタ・サワフタギ・イヌツゲ・フウリンウメモドキ花上。*すずむし、前号で那須氏の採集品で後山から記録した種と同じである。当地で多数採集されたが、近似の *P. bouvieri* カクムネヒメハナは含まれていなかった。当地は後山と共に本種の既知産地の西端になった。

5. *Parastrangalis lesnei* (PIC)

ニョウホウホソハナカミキリ

many exs. 英田郡西栗倉村若杉峠, 7. VII. 1984, 山地採集

他にも多数採集されている。イヌツゲ・フウリンウメモドキ花上で採集した。

6. **Obrium nakanei* OHBAYASHI

ナカネアメイロカミキリ

1♂, 英田郡西栗倉村若杉峠, 7. VII. 1984, 山地採集

センノキの葉をスライピングして採集した。

7. *Parechthistatus gibber daisen* MIYAKE et TSUJI

セダカコブヤバズカミキリ

1♂ 1♀, 真庭郡中和村津黒山, 2. VI. 1984, 山地採集

スキー場上部を横切る林道の側溝中で採集。

8. **Nanohammus rufescens* BATES

クリイロシラホシカミキリ

1♀, 英田郡西栗倉村若杉峠, 14. VII. 1984, 山地採集

イヌツゲの叩網で採集した。

* 〒700 岡山市幸町9-9



ナカネアメイロ
カミキリ



ヒメピロウド
カミキリ

9. *Acalolepta degener* (BATES) ヒメピロウドカミキリ
1♀, 真庭郡川上村上徳山, 30. VI. 1984, 山地採集; 1♂, 同所, 1. VII. 1984, 黒田採集

ススキ葉上・ヨモギ葉上で採集した。奥田好秀氏により当地での記録が発表されたが、筆者等の記録も報告しておく。

10. *Eumecocera argyrosticta* (BATES)

ヒゲナガシラホシカミキリ

1♂, 英田郡西栗倉村若杉峠, 7. VII. 1984, 山地採集

シナノキの葉のスイーピングで採集。県下で2例目の記録である。

(〒700 岡山市幸町9-9)

岡山県より採集した甲虫類の記録・訂正

山地 治*・渡辺 昭彦**

筆者等は日頃岡山県下で各種甲虫の採集を行なっているが、今回比較的記録の少ないと思われる若干の種について報告する。ハナノミについて同定して頂いた畑山武一郎氏・貴重な標本を下さった那須敏氏に感謝する。筆者等の採集者名は(山地-Y・渡辺-W)と略記した。

セスジムシ科

1. *Rhyssodes niponensis* LEWIS ホソセスジムシ
2 exs. 真庭郡新庄村毛無山, 11. VI. 1983, Y; 1 ex. 英田郡西栗倉村若杉峠, 28. VII. 1984, Y

ヒゲブトオサムシ科

1. *Eustra japonica* BATES エグリゴミムシ
2 exs. 玉野市出崎海岸, 29. IV. 1984, Y・W
アカマツ倒木の樹皮下より採集した。

オサムシ科

1. *Nebria macrogona* BATES オオマルクビゴミムシ
1 ex. 御津郡御津町矢原, 17. IX. 1984, Y

ハネカクシ科

1. *Pseudoxyporus sakagutii* NAKANE et K. SAWADA
ハネピロオオキバハネカクシ
2 exs. 高梁市臥牛山, 23. IV. 1983, Y
暗色型 (*ab. nigrofemorialis* NAKANE et SAWADA) である。

コガネムシ科

1. *Sericania matusitai* SAWADA

マツシタチャイロコガネ

1♀, 赤磐郡熊山, 23. IV. 1972, W

2. *Blitopertha ohdaiensis* SAWADA

オオダイセマダラコガネ

1 ex. 英田郡西栗倉村若杉峠, 28. VII. 1984, Y
シナノキ花上より

マルトゲムシ科

1. *Lamprobyrrhulus nitidus* SCHALLER

ドウガネチビマルトゲムシ

1 ex. 新見市内(高梁川川原), 2. V. 1976, W

ホソクシヒゲムシ科

1. *Horatocera niponica* LEWIS ムネアカクシヒゲムシ
1 ex. 英田郡東栗倉村後山, 4. VIII. 1984, W

シバンムシ科

1. *Anhedobia capucina* REITTER

ヒメトサカシバンムシ

1 ex. 高梁市臥牛山, 10. VI. 1972, Y; 1 ex. 高梁市広瀬, 10. V. 1975, Y

2. *Xyletinus japonicus* PIC セスジタワラシバンムシ
2 exs. 高梁市臥牛山, 10. V. 1974, Y; 1 ex. 同所, 9. VI. 1974, Y

カッコウムシ科

1. *Tenerus lewisi* LOHDE ルリツツカッコウムシ
1 ex. 阿哲郡哲多町荒戸山, 28. IV. 1983, Y
2. *Tenerus castaneus* KONO クリイロカッコウムシ
1♂, 英田郡東栗倉村後山, 4. VIII. 1984, W
ナイターに飛来した。

* 〒700 岡山市幸町9-9

** 〒701-01 倉敷市上東1050-1

オオキスイムシ科

1. *Helota cereopunctata* LEWIS ミドリオオキスイ
1 ex. 苫田郡奥津町泉源, 2. VI. 1984, Y; 1 ex.
英田郡西栗倉村若杉峠, 24. VI. 1984, W

オオキノコムシ科

1. *Microsternus tricolor* LEWIS
ミイロムナビロオオキノコムシ
2 exs. 高梁市臥牛山, 23. IV. 1983, Y
すでに採集されているようであるが筆者も記録して
おく。褐色のサルノコシカケ類のキノコで採集した。

2. *Megalodacne bellula* LEWIS
カタボシエグリオオキノコムシ
1 ex. 真庭郡新庄村毛無山, 21. VI. 1983, Y
サルノコシカケ科のキノコより採集

3. *Encaustes cruenta praenobilis* LEWIS
オオキノコムシ
1 ex. 英田郡西栗倉村若杉峠, 28. VII. 1984, Y
日本産オオキノコムシ科最大の種で鳥取県下では多
産地があるが岡山県下からの報告はなかった。

4. *Cyrtotriplax maculifrons maculifrons* LEWIS
ミツボシオオキノコムシ
1 ex. 高梁市臥牛山, 23. IV. 1983, Y
テントウムシ科

1. *Menochilus sexmaculatus* FABRICIUS
ダンダラテントウ
1 ex. 倉敷市上東, 8. VI. 1969, W; 1 ex. 倉敷
市日差山, 10. V. 1970, W

2. *Coccinella ainu* LEWIS ジュウイチホシテントウ
2 exs. 新見市井倉 (高梁川川原), 19. VI. 1983,
W

ナガクチキムシ科

1. *Phloeotrya bellicosa* LEWIS
オオクロホソナガクチキムシ
1 ex. 英田郡西栗倉村若杉峠, 7. VII. 1984, Y
2. *Paramikadonius crepusculus* LEWIS
コメツキガタナガクチキムシ
1 ex. 真庭郡新庄村毛無山, 9. VII. 1983, Y
中国地方からは記録がなかったようである。スギ切
株の樹皮下より採集した。

3. *Melandrya rufonotata* NOMURA
アカモンナガクチキムシ
1 ex. 英田郡西栗倉村若杉峠, 27. V. 1984, W;
1 ex. 英田郡東栗倉村後山, 3. VI. 1984, 那須敏氏
採集

ハナノミ科 [畑山氏同定(H)]

1. *Glipa shirozui* NAKANE オオオビハナノミ
2 exs. 高梁市臥牛山, 1. VII. 1971, Y; 1 ex. 同
所, 16. VII. 1972, Y; 1 ♂, 真庭郡新庄村毛無山,
11. VI. 1983, Y(H); 1 ex. 同所, 30. VII. 1983, Y
2. *Tomoxia scutellata* KONO ネジロモンハナノミ
1 ♂. 真庭郡新庄村毛無山, 11. VI. 1983, Y(H)
3. *Tomoxia nipponica* KONO モンハナノミ
1 ♀. 真庭郡新庄村毛無山, 11. VI. 1983, Y(H)
前種と共にブナ立枯れより採集した。
4. *Hoshihananomia mitsuoi* NAKANE et NOMURA
ミツオホシハナノミ
1 ♀, 真庭郡新庄村毛無山, 11. VI. 1983, Y(H)
ブナ大木 (生木) の幹に止まっていたものを採集。
5. *Variimorda flavimana* (MARSEUL)
キンオビハナノミ
1 ♂ 1 ♀, 真庭郡新庄村毛無山, 11. VI. 1983, Y
(H)

ツチハンミョウ科

1. *Epicauta gorhami* MARSEUL マメハンミョウ
2 exs. 真庭郡新庄村田浪, 15. VII. 1976, Y; 1 ex.
真庭郡川上村上福田, 31. VII. 1982, Y
田浪ではキャンプ場の草地に多産していた。
2. *Zonitis japonica* PIC キイロゲンセイ
2 exs. 真庭郡湯原町湯原, 14. VII. 1977, Y
カラスザンショウ花上で採集した。

ハムシ科

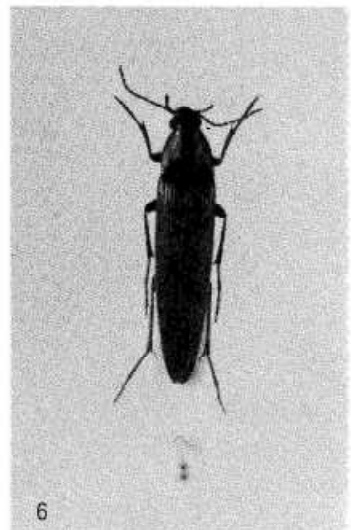
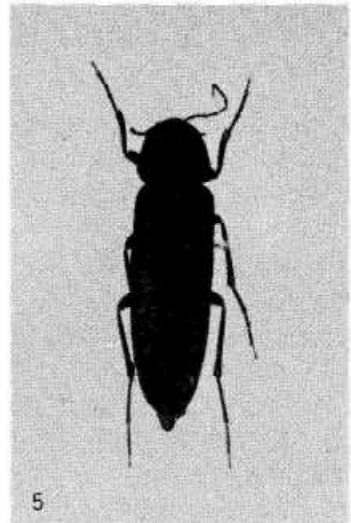
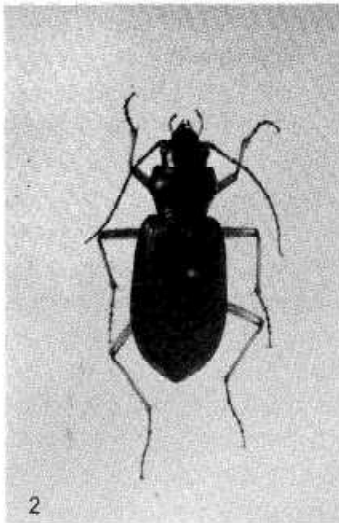
1. *Zeugophora unifasciata* JACOBY
オビモンナガハムシ
1 ex. 阿哲郡哲多町荒戸山, 18. VI. 1983, W
2. *Hamushia eburata* HAROLD ヨツキボシハムシ
1 ex. 苫田郡上齊原村三ヶ上, 9. V. 1982, W

[訂正]

岡山県より採集した甲虫類 (山地治) すずむし、第
115号中に和名の誤りがあったのでお詫びと共に訂正
させていただきたい。 p. 28上から31行目
(誤) クロヘリメツブテントウ
(正) クロジュウニホシテントウ

[写真説明]

1. オオダイセマダラコガネ
2. オオマルクビゴミムシ 3. オオキノコムシ
4. ジュウイチホシテントウ
5. オオクロホソナガクチキムシ
6. コメツキガタナガクチキムシ
7. アカモンナガクチキムシ



おとしぶみ

臥牛山の材より

ヒゲナガヒメカミキリ羽化脱出

福田 元信

高梁市臥牛山にてベーツヤサカミキリ採集のためカゴノキ枯木を持ち帰っていたところ、*Ceresium longicorne* Pic ヒゲナガヒメカミキリの脱出をみたので報告する。なお、カゴノキ以外の材も少々混じていたため、脱出材は不明である。

2 exs. 25. VII. 1982 (羽化脱出)

なお、本種は津山市下高倉西の樹種不明の材からも、1 ex. 8. VI. 1982 羽化脱出している。

(〒708-11 津山市下高倉西97)

総社市のヒゲナガヒメカミキリ

竹内 幸夫

1982年3月、総社市市場付近でウメ枯枝を採取保存していたところ、*Phothyne annulata* シロスジドウボンカミキリ 1 ex. が羽化脱出した後、9月12日～9月15日の間に*Ceresium longicorne* ヒゲナガヒメカミキリが4 exs. 羽化脱出した。本種はかなり雑食性のようであるが、新分布地及び新食樹と思われるので、ここに報告する。

(〒708 津山市林田790-1)

ミドリシジミ類の黒紋消失個体について

渡辺 和夫

ミドリシジミ類の後翅裏面肛角部にある橙色斑内には、通常小円形の黒紋が存在するが、これを完全に消失した異常型を数例見出したので報告する。

1. ジョウザンミドリシジミ

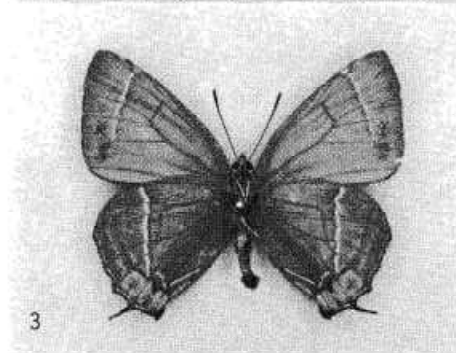
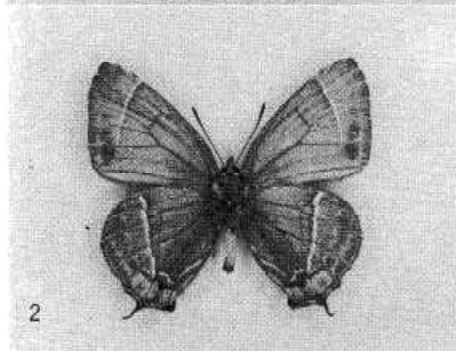
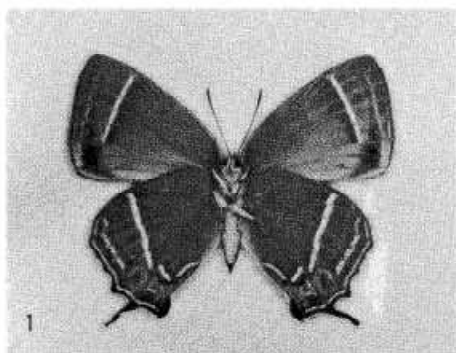
1 ♀, 真庭郡川上村苗代谷, 24. V. 1984 羽化, 尾関啓吉採卵飼育〔写真1〕

同地で得た卵を飼育して得られた1 ♂ 2 ♀の中に含まれていた。

2. アイノミドリシジミ

1 ♂, 真庭郡中和村山乗山, 12. VII. 1983 中村具見採集〔写真2〕

1 ♂, 真庭郡中和村山乗山, 10. VII. 1984 筆者採集〔写真3〕



両種とも、黒紋の消失以外には異常は認められない。このような異常型は、筆者の知る限りでは、オオミドリシジミ²⁾、メスアカミドリシジミ³⁾、ウラジロミドリシジミ⁴⁾、ミドリシジミ⁵⁾について1例ずつ報告されている。

また、藤岡¹⁾によれば、ハヤシミドリシジミの北海道東部産の個体については、黒紋が消失しかけた個体が少なくないとされている。しかし、図示された標本を見る限り、これらの個体は橙色斑そのものの発達もあまりよくないようで、この付近の個体に共通した地理的変異と考えられる。

ところで、これまでに報告された同様な異常型のうち、野外での採集品はオオミドリシジミとウラジロミドリシジミのみであり、今回のアイノミドリシジミのように、遺伝的に劣性なはずのこうした異常型が、同一地点で2年連続して野外で採集されたことは、注目に値するものと思われる。

末筆ながら、快く発表に同意頂いた尾関啓吉、中村具見両氏に厚くお礼申しあげる。

参考文献

- 1) 藤岡知夫 (1981) 日本産蝶類大図鑑: PL. 64, fig. 46~54
- 2) 木暮 翠 (1975) 昆虫と自然10 (13): 26
- 3) 中村泰士 (1983) すかしば (20): 24~27
- 4) 大塚依久 (1976) 蝶と蛾27 (2): 58
- 5) 粒見智晃 (1977) 月刊むし71: 8

(〒719-11 総社市三輪203)

アカエゾゼミ蒜山でも記録される

近藤 光宏

岡山県下でこれまで未発見であったアカエゾゼミが、昭和59年8月12日岡山県立森林公園において伊藤國彦氏により初めて記録されたが¹⁾、その後間もなく蒜山でも1 ♂〔写真〕が記録されたので、ここに採集者の中村具見氏に代わって報告する。

採集地名 岡山県真庭郡川上村苗代谷
(蒜山大山有料道路)

採集年月日 1984年8月25日

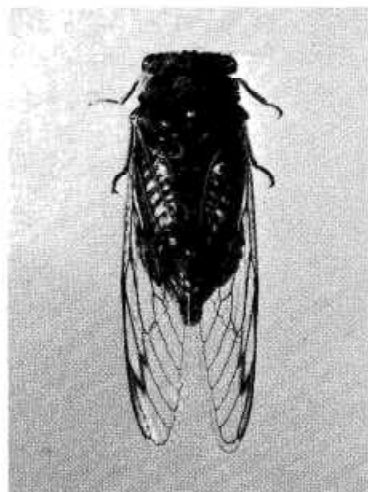
採集個体数 1 ♂

採集者名 中村具見

採集方法 ライトトラップ

同定方法 図鑑同定(翅の紋, ♂は腹弁の交わり方の違い等により, 近縁種と容易に区別し得る)

所蔵者 近藤光宏



同氏によって、アカエゾゼミが県内に生息することは、より確かになってきた。また、これで *Tibicen* 属 3 種 (コエゾゼミ、アカエゾゼミ、エゾゼミ) はいずれも県内に産することになった。

保育社の図鑑³⁾によると、*Tibicen* 属 3 種の西南日本における分布は、いずれも山地性である。そして、コエゾゼミが最も高標高の 1,000m 以上のブナ林などに生息しており、次いでアカエゾゼミとなる。アカエゾゼミはスギ林などでエゾゼミと混生していることも多いが、生息標高はエゾゼミよりやや高く、ブナ林などの自然度の高い広葉樹林に多い。しかし、産地は局地的である。エゾゼミは前 2 種より生息範囲が広く 700~1,000m のマツ、スギなどの針葉樹林に生息するようで、岡山県でも上房郡大平山のあたりまで確認されている。

ちなみに隣接県の分布について述べてみたい。広島県の場合、宮武頼夫²⁾は、吾妻山及び後冠山山地での記録を掲げ、個体数は多くないと報告している。兵庫県の場合は、奥谷楨一¹⁾の報文には、コエゾゼミ、エゾゼミの記録はあるが、アカエゾゼミは見当たらない。また、鳥取県、島根県についても、環境庁⁴⁾でみる限り、アカエゾゼミは産しない。

参考文献

- 1) 奥谷楨一 (1974) 東中国山地自然環境調査報告「中国山脈東端の昆虫相」
- 2) 宮武頼夫 (1977) 比和の自然: 239
- 3) 保育社 (1977) 原色日本昆虫図鑑 (下)
- 4) 環境庁 (1981) 日本の重要な昆虫類 (中国版)
- 5) 伊藤國彦 (1984) 昆虫と自然 19 (14)
(〒710 倉敷市中央 2-16-14)

蜂に寄生する甲虫 2 種の記録

原田 裕康

筆者はここ数年ハチ類の採集をしているが、野外より採集した蜂の巣からは寄主の他にさまざまな寄生昆虫 (ハチ・アブ・ハエ・甲虫類など) が現われる。その中に岡山県では記録が少ないと思われる寄生性甲虫 2 種について報告しておく。

1. *Zonitis japonica* Pic キイロゲンセイ

1 ex. 邑久郡長船町福岡, 12. VII. 1983

我家に造巣していたオオハキリバチの巣より夕方羽化脱出。(体長 20mm)

2. *Macroisagon nasutum* Thunberg

ムモンオオハナノミ

1 ex. 赤磐郡瀬戸町森末, 15. VI. 1983

スズバチの巣より羽化。(体長 12mm)

1 ex. 赤磐郡瀬戸町児童公園, 15. VI. 1984

便所に造られていたオオカバフスジドロバチ (エントツドロバチ) の巣より羽化。本種はドロバチ類に広く寄生するがこの例は珍しい。(体長 12mm)

参考文献

岩田久二雄 (1975) 自然観察者の手記

岩田久二雄 (1983) 新・昆虫記

(〒701-42 邑久郡長船町福岡 453-7)

ナガサキアゲハ岡山県東南部にも分布

原田 裕康

ナガサキアゲハは県南部を中心に広く記録されているが、未だ邑久郡においては確認されていないようなので報告しておく。

邑久郡邑久町片山, 31. VII. 1982, リョウブの花に 1 頭訪れているのを目撃。

邑久郡牛窓町前島, 23. VIII. 1982, 山道を 1 羽が飛んでいた。

邑久郡邑久町福谷, 29. V. 1983, ミカン畑上で数頭目撃; 26. VII. 1984, ヤブガラシの花に 1 羽の訪花を目撃; 7. IX. 1984, 道路上を飛んでいる 1 羽を目撃。

ここは錦海湾に面する通り山という山で南西斜面にはミカン畑が広がっておりアゲハ類が多い。

長船町においてはまだ確認できていないが近い将来確認できるであろう。一方、クロアゲハは毎年我家 (長船町福岡) のユズとレモンの盆栽に発生するし、付近の山においてもまだ普通に見かけることを付記しておく。

参考文献

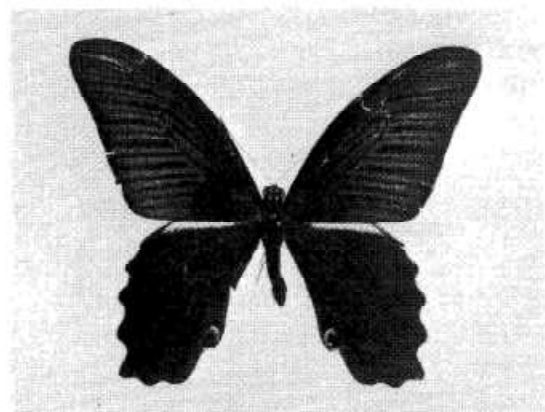
- 難波通孝 (1980) 岡山県のカガサキアゲハについて。
すずむし, (117): 5-11
岡田耕一 (1982) ナガサキアゲハの分布と生態について。
すずむし, (118): 47-48
(〒701-42 邑久郡長船町福岡453-7)

倉敷でクロアゲハ無尾型を採集

青野 孝昭

クロアゲハの無尾型は、九州以北の日本本土では出現率が小さく、標本が得られた折には、珍しい例として、これまでも各紙によく報告されている。岡山県では、1942年に岡山市北部の金山で1♂が採集された例が報告されているが(昆虫界, vol. 10, No. 100: P. 650-651), 県下2例目と思われる標本が、この度、倉敷市で採集されているので報告しておく。

1♂, 倉敷市鶴形山, 2. X. 1984, 松田幹雄採集
標本は、倉敷市立自然史博物館員の松田幹雄氏が採集したもので、現在、同博物館が所蔵している。



ちなみに、クロアゲハ *Papilio protenor* の分布圏はヒマラヤ西部からカシミールを経て、ビルマ北部、ラオス、ベトナム、中国大陸南半、台湾、朝鮮半島南部、日本列島の本州までと、東洋の亜熱帯から暖温帯に带状に広がっている。そのうち、朝鮮半島南部と日本列島のはほぼ九州以北に分布する個体群に尾状突起があり(有尾型)、南西諸島でクライン傾向をみせ、ほぼ台湾以西の分布地では尾状突起を欠く(無尾型)のが通常のようなものである。遺伝的には劣性の無尾型が、本州で時折、出現する現象には興味深いものがある。

(〒710 倉敷市大内937-8)

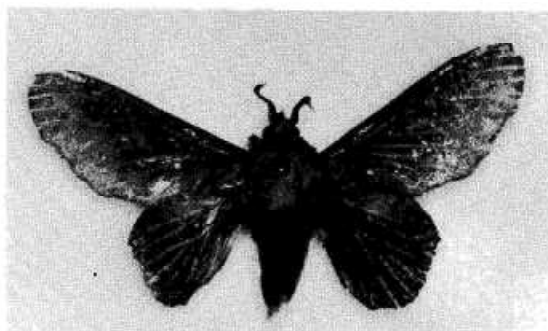
ワタナベカレハを岡山県大佐町で採集

風早 保男

Gastropacha watanabei OKANO ワタナベカレハの既知

産地については、亀田満氏により、屋久島、熊本県、和歌山県、秋田県、山形県について北海道が報ぜられているが²⁾、筆者の手元に下記の採集品があるので報告する。

1♂, 岡山県阿哲郡大佐町大佐ダム, 19. VIII. 1984



中国地方では初記録になると思われるが、古い図鑑には載っていないので、ホシカレハと混同されているかもしれない。

参考文献

- 1) 井上寛ほか (1982) 日本産蛾類大図鑑
2) 亀田満 (1984) 北海道産 *Gastropacha* 属 3 種の記録。誘蛾燈97
(〒710-11 都窪郡山手村地頭片山576)

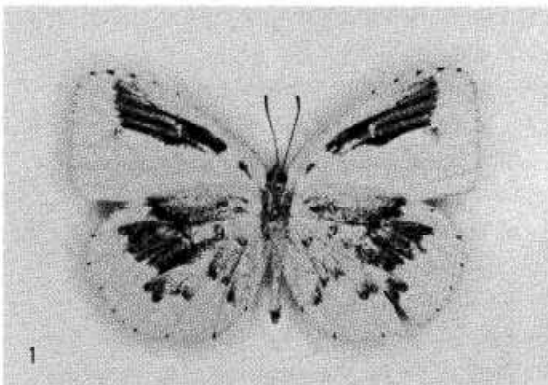
蝶の異常型2例

尾関 啓吉

筆者の手元にある蝶の異常型2例について報告する。

1. キチョウ [写真1]

1♀, 赤磐郡吉井町河原屋, 23. IX. 1976, 筆者採集



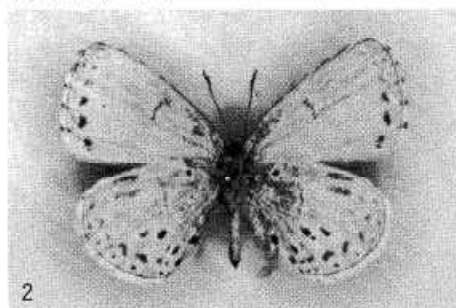
前後翅の裏面中央部に褐色の鱗粉が広がり、ウスキシロチョウ(ギンモン型)の赤斑型のような印象を受ける異常型である。

キチョウの秋型は一般に裏面の褐色斑が発達し、特

に南西諸島産の個体の中には裏面前翅端にはかなり大きな斑紋を有するものも見られる。しかし、この個体の斑紋は、そうした地理的変異とは異なるものと思われる。

2. ルリシジミ [写真2]

1 ♀, 岡山市金山, 15. VIII. 1976, 筆者採集



裏面中央の黒点列が消失したもので、ルリシジミ属にはよく見られる異常型である。前翅の黒点列は全く消失しているが、後翅では肛角付近に一部残っており、また、前縁付近では外側へ流れてむしろ拡大している。

参考文献

藤岡知夫 (1981) 日本産蝶類大図鑑

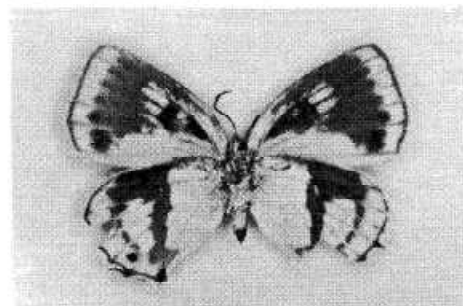
(〒709-08 赤磐郡山陽町桜が丘西1-14-31)

ミズイロオナガシジミの異常型

近藤 要一

ミズイロオナガシジミには、前後翅基部付近に黒点を現わすもの (*f. sayamaensis*) や、黒帯が内側に広がったもの (*f. neoautilia*) など裏面の斑紋にいくつかの遺伝的変異のあることが知られているが、筆者は、これらの遺伝型とは異なる変異傾向を有する異常型を採集しているので報告しておく。

1 ♀, 総社市井尻野, 9. VI. 1967



写真に示すように、前後翅とも中央部の黒帯が並外縁にかけて広がっており、前翅ではさらに *neoautilia* のように内側へと流れているものである。

なお、標本は倉敷昆虫館に収蔵されている。

参考文献

藤岡知夫 (1971) シジミチョウ科の斑紋, 昆虫と自然 6(2): 2-14

(〒440 愛知県豊橋市曙町字宮前20-1)

赤坂町におけるヒメヒカゲの採集記録

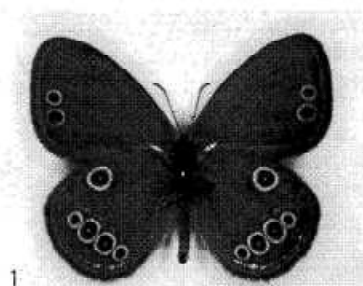
中村 具見

ヒメヒカゲは、主に湿性草原と結びついて県下に広く分布しているが、一般に産地は局地的である。南部瀬戸内沿岸にはやや多くの産地が知られているが、これまで記録されていないと思われる赤坂町において、下記のとおり採集しているので、少し古い記録ではあるが報告しておく。

1 ♂ 2 ♀, 赤磐郡赤坂町大刈田, 11. VI. 1977

3 ♂ 1 ♀, 〃, 4. VI. 1978

いずれも筆者採集, 保管

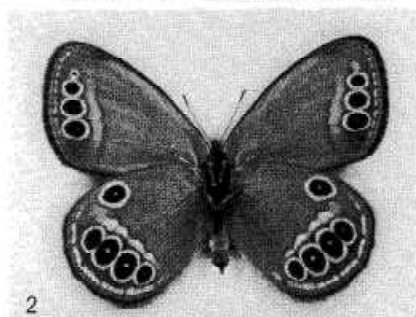


赤坂町産

ヒメヒカゲ

1. ♂ 裏面
(4. VI. 1978)

2. ♀ 裏面
(11. VI. 1977)



採集地は山麓緩斜面の窪地に生じた、約500㎡ほどの広さの湿性草原である。アカマツ矮木林に囲まれたこのような湿原は、南部瀬戸内沿岸の花崗岩地帯によく見られ、本種もこうした環境を生息地とすることが多いが、この湿原では上記の個体を発見したにすぎず、個体数はかなり少ないようである。その後もわずかながら得られていたが、1982年6月5日に訪れた時は全く目撃することができなかった。

なお、ここで得られた個体は、県北の山地帯に産するものに比べて一般に大型となる南部低地産の中でも特に大型であり、また♀裏面の地色も一層黄褐色味が強く、明るい色調を呈している。

(〒719-11 総社市真壁1048)

津山市下高倉西におけるカミキリムシ
4種の記録

福田 元信

岡山県下では既に報告されている種であるが、津山市下高倉西の狭い範囲で次の4種のカミキリムシがまとめて採集されたので報告する。

1. *Schwarzerium quadricolle* (BATES) アオカミキリ

3♂, 8. VI. 1980 福田採集

1♂1♀, 9. VI. 1980 福田採集

2♂2♀, 12. VI. 1980 竹内採集

自宅より50mも離れていない墓地に生えているモミジの枝が、前年の秋大量に切り落とされ、本種の加害が観察されたので、発生時期に訪れると被害木の周辺を飛ぶ本種を発見した。なお、そのモミジは毎春オダヒゲナガコバネカミキリが採集されるため、伐採の時に残しておいたものである。

2. *Aulacnotus pachypezoides* THOMSON

タテジマカミキリ

5 exs. 12. VII. 1981 福田採集

2 exs. 20. VII. 1981 竹内採集

自宅周辺の山にカクレミノが多く自生し、いたるところに本種の被害が見られた。上記の記録以後も数多くの本種が観察され、また、竹内氏の調査によれば、津山市の他の地域においても各地に食樹は自生し、一部を除き被害されている地域が多いことが確認された。

4 exs. 12. I. 1982 津山市高野山西 竹内採集

2 exs. 13. I. 1982 〃 〃

2 exs. 15. I. 1982 〃 〃

3 exs. 18. I. 1982 〃 〃

5 exs. 20. I. 1982 津山市下高倉西 〃

1 ex. 25. I. 1982 津山市野介代 〃

1 ex. 25. I. 1982 津山市林田 〃

1 ex. 17. I. 1982 津山市勝部 〃

17. I. 1982 津山市志戸部にて材採 15. VI. 1982,
2 exs. 羽化脱出

3. *Phymatodes testaceus* (LINNÉ)

チャイロホソヒラタカミキリ

12 exs. 23. VI. 1982 福田採集

自宅横の薪に次々と飛来した。時刻は18:30~19:00の夕暮に限られ、昼間は1頭も姿を見かけなかった。なお、黄褐色型は1頭のみであったが前胸背は赤から黒までであった。

4. *Semanotus japonicus* (LACORDAIRE) スギカミキリ

many exs. 14. IX. 1980 福田採集 (材中)

2 exs. 14. IV. 1981 福田採集

津山市周辺でも本種は普通であるが、今迄その習性を知らなかったため、採集しにくかった。関西林業試験場(勝央町)の指導によりその習性を知り、採集が容易になったので、その知見を報告する。本種は脱出後被害木の根際の落葉や土の下にもぐり、盛んに活動しているので、小指程の新しい脱出口のある被害木の根際を捜せば容易に発見できる。津山市周辺では4月5日~10日が最盛期のようなのである。

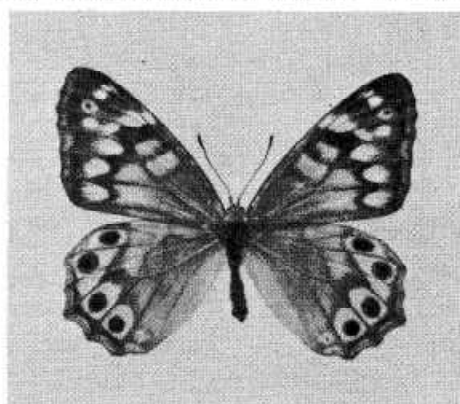
(〒710-11 津山市下高倉西97)

草間台地でヒメキマダラヒカゲを採集

織田 明文

岡山県におけるヒメキマダラヒカゲの記録は、従来北部山地に多く、吉備高原からの報告はわずかに1例川上郡備中町小谷¹⁾があるだけで、県内はもとより県外からの採集者も多い草間台地では、これまで採集・目撃の記録はないようである。

1♀, 新見市草間大原(440m), 18. VI. 1983



附近には食草と思われるササの一種(種名不詳)が群生しておりこの場所で発生したものと思われるが、その後確認してないので今後調査を重ねたいと思う。

参考文献

1) 倉敷昆虫同好会(1972) 岡山県の蝶, すずむし
108:46-47

(〒701-12 岡山市佐山2105-9)

コクワガタ♂の大腮異常型

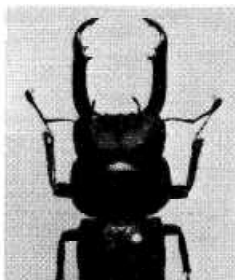
原田 裕康

コクワガタの大腮が体の大きさによって変異することはよく知られているところであるが、筆者は大腮内歯を2対もった異常個体(体長42mm)を保管しているので報告しておく。

この個体は1983年8月10日に筆者の家に泊りに来た

小学生の従弟（井原政雄）が手に持っていたものであり、死後同君より譲り受けた。採集地を聞いたが子供のことうえ覚えていなかったのが残念であった。

（〒701-42 邑久郡長船町福岡453-7）

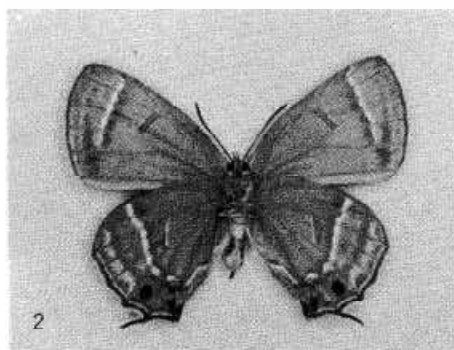
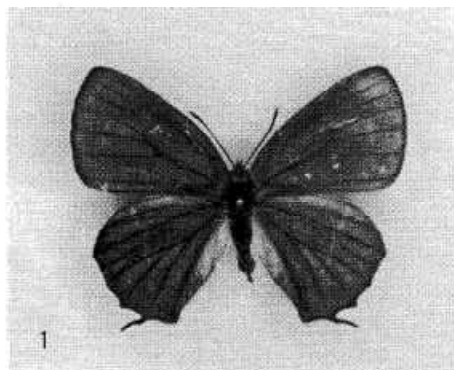


メスアカミドリシジミO型♀の記録

尾関 啓吉

メスアカミドリシジミ♀の前翅表に現れる橙色斑（A斑）は、一般に中部以北ではよく発達するが、近畿以西では南に行くに従って減退し、いわゆるクライン現象をなすことが知られている。このA斑を全く消失したO型個体は、これまで九州¹⁾、四国²⁾、広島県¹⁾などで得られているが、岡山県からはまだ記録されていないようなので、飼育によって得られた個体ではあるが、参考までに報告しておく。

1 ♀, 真庭部中和村植杉溪谷, 24. V. 1984 羽化



〔写真〕 1. 表面, 2. 裏面

全体に小型で地色は淡く、翅形もやや円味をおびて、一見するとメスアカミドリシジミとは思えないような個体である。

参考文献

- 1) 藤岡知夫（1981）日本産蝶類大図鑑
- 2) 片岡敬一（1984）やどりが, 117, 118:26
（〒709-08 赤磐郡山陽町桜が丘西1-14-31）

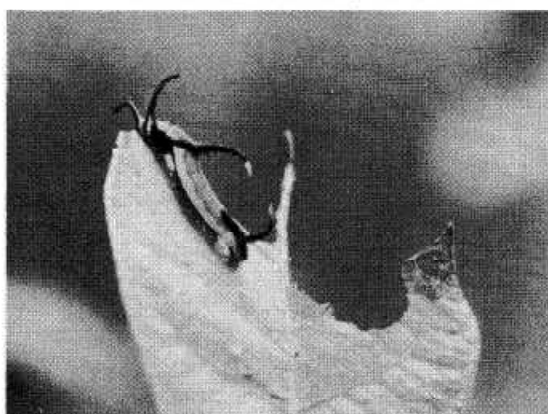
イシガケチョウの新産地

織田 明文

県内におけるイシガケチョウは散発的に記録されているが、大部分は成虫の記録であり幼生期が確認されたのはこれまでに倉敷市、岡山市が知られている。

筆者は児島郡においてサトキマダラヒカゲの分布調査を行っていた際、下記の通り幼虫と蛹を確認したので報告する。

7 幼虫 1 蛹, 児島郡灘崎町片岡, 23. VIII. 1983



池畔に生えた1株のイヌビワの葉表に静止中の幼虫を偶然に見つけたので、さらに附近を調べた結果、あわせて2令幼虫 1 ex. 3令幼虫 4 exs. 終令幼虫 2 exs. 蛹 1 ex. を確認できたものである。

（〒701-12 岡山市佐山2105-9）

岡山市内で採集したカミキリムシ 2種の記録

山地 治

岡山市内のカミキリムシは、平田信夫・植田千弘・那須敏・伊藤國彦の各氏によって、「岡山市街地周辺部の昆虫相(3)―カミキリムシ科―〔岡山県立短期大学研究紀要第28号 (1984) p. 11-18〕」として103種がまとめられたが、筆者はその後、未記録種2種を採集したので追加したい。

1. *Dinoptera minuta* (GEBLER) ヒナルリハナカミキリ
4 exs. 岡山市掛畑, 4. V. 1984

賀陽町から黒谷池への途中のウヰミズザクラ花上に多産していたが、黒谷池のカエデ花上では未だ採集出来ないでいる。

2. *Xylotrechus grayii* (WHITE)

ムネマダラトラカミキリ

5 exs. 岡山市日応寺, 19. V. 1984

アカマツの混じった雑木林の伐採地で、カシ類(?)の伐採木上で採集した。

(〒700 岡山市幸町9-9)

オニクワガタを中和村で採集

吉原 一美

オニクワガタ *Prismognathus angularis* WATERHOUSE は、中国地方においては採集例の少ない種のようなのである。

筆者は本種を下記のとおり採集しているので分布資料として報告したい。

2 ♂, 岡山県真庭郡中和村山乗山, 11~12. VII. 1984

燈火採集の際、近くの地上に来ていたものを採集した。

参考文献

山地 治 (1984) 高鉢山 (鳥取県) のクワガタムシ。すずむし, (119): 14

那須 敏 (1984) オニクワガタ

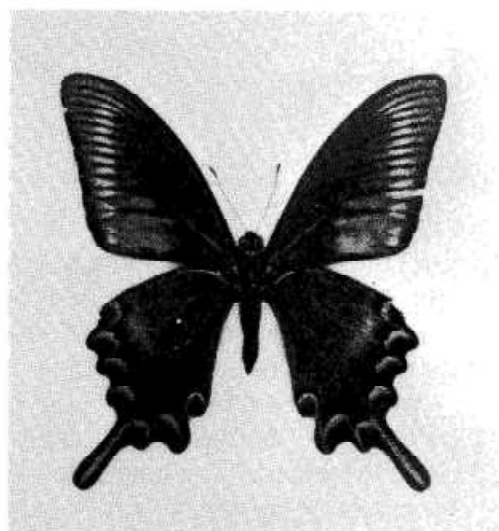
の採集記録。みちしるべ, (4): 16

(〒700 岡山市学南町1-8-35)



るので、今回の採集地を含む操山山系一帯でも稀ながら食樹が自生し、本種もこれに依存して定着しているものと思われる。

(〒719-11 総社市真壁1048)



灯火に飛来した蝶

渡辺 和夫

蝶の訪火例については、各地の同好会誌・月刊誌等に数多く報告されており、特に目新しいものはないが、岡山県内の記録として次のとおり報告する。

これは、1984年6月から9月にかけて、県内産 *Catocala* 分布調査のため行った延べ19回に亘る灯火採集の際の記録である。光源は、ブラックライト20w×1本と白色蛍光灯20w×2本を使用した。

なお、目撃又は採集確認したにとどまり、標本は存在しない。(現認者は中村具見氏)

時間は、飛来したと思われる時間を記録した。

1. ウラナミアカシジミ

1 ex. 岡山市上高田, 29. VI. 1984, 10:00pm.

2. ミズイロオナガシジミ

1 ex. 岡山市西花尻, 18. VI. 1984, 9:00pm.

3. エゾミドリシジミ

1 ♀, 中和村山乗山, 11. VII. 1984, 11:00pm.

1 ♀, 中和村山乗山, 19. VII. 1984, 9:30pm.

4. フジミドリシジミ

1 ♀, 中和村山乗山, 11. VII. 1984, 9:00pm.

5. トラフシジミ (夏型)

1 ex. 賀陽町大平山, 1. VII. 1984, 8:30pm.

6. ヒメアカタテハ

1 ex. 中和村山乗山, 12. VII. 1984, 1:00am.

7. ヒメキマダラヒカゲ

ミヤマカラスアゲハを岡山市街地で採集

中村 具見

ミヤマカラスアゲハは、岡山県下では一般に山地性の種で吉備高原から中国山地にかけて広く分布し、やや普通に見られるところもあるが、南部低地ではわずかの採集例があるにすぎない。しかも、これら低地での採集記録のほとんどは、飛翔力が強く分散傾向のみられる夏型個体である。

筆者は、岡山市街地の一角にある丘陵地において、多数のカラスアゲハ、クロアゲハ等に混じって飛来した本種の春型1♂を採集しているのので、下記のとおり報告しておく。

1 ♂, 岡山市湊操陽南山, 24. V. 1984

前翅の一部を破損しているが、比較的新鮮な個体である。

本種はミカン科の中でも特にキハダ、カラスザンショウ、ハマセンダン等を好んで食樹とすることから、県下では、これらのうち前2種が多く自生する吉備高原地域以北に多いが、逆に、こうした食樹さえあれば、平野部や時には市街地にも生息することが知られてい

- 1 ex. 加茂町倉見, 23. VIII. 1984, 11:30pm
 8. クロヒカゲ
 1 ex. 中和村山乗山, 12. VIII. 1984, 1:30am
 1 ex. 大佐町大佐山, 8. IX. 1984, 11:00pm

9. コバチャバネセセリ
 1 ex. 中和村山乗山, 19. VIII. 1984, 11:00pm
 (〒719-11 総社市三輪203)

投 稿 規 定

1. 報文の原稿は次のような体裁にする。
 - (1) 用紙は400字詰横書原稿用紙を用いる。
 - (2) 記述は表題, 著者名, 現住所, 本文, 要約, 文献の順序とする。
 - (3) 動植物の和名は片かなで書き, 学名は *Popilio xuthus* LINNE のように下線で引く。
 - (4) データの記載は次のように略記する。
 2♂, 1♀, Aug. 26, 1966または2♂, 1♀, 26. VIII. 1966など
 - (5) 読点は(., : " ")などを用い, 句読点及びカッコは1マスに1つ, 数字や英字は1マスに2字ずつ書く。
 - (6) 文献は本文に引用したものに限り, 著者名のアルファベット順に並べて下記のような形式で記す。
 大野正男 (1966) 広島県のハムシ相. すずむし, 16(1): 1-11
 MOTSCHULSKY. V (1865) Homopteres in insectes. Etud. Ert. 8: 25-118
2. 報文は簡潔に記すこと, 原稿は返却しない。
3. 別刷は著者の負担で調製できる。原稿1頁欄外に必

要部数を朱書すること。

4. 原稿の送付は下記宛とする。
 〒710 岡山県倉敷市幸町 重井病院内
 倉敷昆虫同好会

出版物分譲案内

- ・岡山県の昆虫 (1978) B5, 146pp, 会員1,200円, 一般1,500円, 送料250円
 - ・すずむしバックナンバー

16 (2, 3, 4合併号)	1,000円 (〒200円)
17 (1, 2)	各500円 (〒170円)
18 (1, 2)	各500円 (〒170円)
19 (1, 2合併号)	1,000円 (〒170円)
106号	600円 (〒170円)
107号	400円 (〒120円)
108-117号	各1,000円 (〒170円) ただし110, 114号は〒200円)
118号, 119号	1,500円 (〒200円)
- 申込みは送料をそえて, 前金 (現金, 振替, 小為替) で本会事務所へ。

倉敷昆虫同好会会則

1984年 (昭和59年) 11月25日改正

1. 本会を「倉敷昆虫同好会」と称する。
2. 本会の本部を倉敷市中央2丁目岡山大学農業生物研究所作物害虫第2研究室におき, 事務連絡先は倉敷市幸町倉敷昆虫館内におく。
3. 本会は昆虫学に関するあらゆる研究を行い, その進歩普及をはかり, あわせて同好者間の親睦を増すことを目的とする。
4. 前項の目的を達成するために, 次の諸事業を行う。
 - (1) 随時採集会, 懇談会等を行う。
 - (2) 機関誌「すずむし」を年1回以上発行する。また, 連絡紙「KURAKON」を年数回発行する。
 - (3) その他目的達成のため必要と認められる行事を行う。
5. 本会の行事年度は毎年1月1日に始まり, 12月31日に終る。
6. 年令, 性別を問わず, 昆虫に関心を有し, 本会の趣旨, 目的に賛意を表する者は誰でも本会に入会できる。
7. 本会の会員は機関誌の配布を受け, これに執筆し, 又懇談会など本会の行う諸行事に参加することができる。ただし, 会費年1,500円を前納しなければならない。会費滞納が2ケ年以上継続し, 通知しても連絡のない時は自然退会とみなされる。
8. 退会せんとするものはその旨を本会事務所に申し出ること。ただし既納の会費は返付しない。
9. 本会には幹事若干名をおく。
10. 幹事の任期は2年とする。ただし重任を妨げない。
11. 幹事改選は紙上連絡により, 投票をもってこれを行う。
12. 本会の運営に関する事項, 会則の変更及びその他細則については幹事会がこれを行い, 紙上に発表し, 会員の承認を得る。

目 次	次
岡山県下でヒサマツミドリを採集……………中村具見 1	蝶の異常型2例……………尾関啓吉 14
川上村明連溪谷のシジミチョウ……………渡辺和夫 2	ミズイロオナガシジミの異常型……………近藤要一 15
岡山県のコメツキムシ追録Ⅱ……………渡辺昭彦 5	赤坂町におけるヒメヒカゲの採集記録 ……………中村具見 15
岡山県のカミキリムシ数種の記録……………山地 治 8	津山市下高倉西におけるカミキリムシ4種の記録 ……………福田元信 16
岡山県より採集した甲虫類の記録・訂正 ……………山地 治・渡辺昭彦 9	草間台地でヒメキマダラヒカゲを採集 ……………織田明文 16
—おとしぶみ—	コクワガタの大肥異常型……………原田裕康 16
臥牛山の材よりヒゲナガヒメカミキリ羽化脱出 ……………福田元信 11	メスアカミドリシジミO型♀の記録 ……………尾関啓吉 17
総社市のヒゲナガヒメカミキリ……………竹内幸夫 11	イシガケチョウの新産地……………織田明文 17
ミドリシジミ類の黒紋消失個体について ……………渡辺和夫 12	岡山市内で採集したカミキリムシ2種の記録 ……………山地 治 17
アカエゾゼミ蒜山でも記録される……………近藤光宏 12	オニクワガタを中和村で採集……………吉原一美 18
蜂に寄生する甲虫2種の記録……………原田裕康 13	ミヤマカラスアゲハを岡山市街地で採集 ……………中村具見 18
ナガサキアゲハ岡山県東南部にも分布 ……………原田裕康 13	灯火に飛来した蝶……………渡辺和夫 18
倉敷でクロアゲハ無尾型を採集……………青野孝昭 14	
ワタナベカレハを岡山県大佐町で採集 ……………風早保男 14	

人 法 医 療 重 井 病 院

倉敷市幸町 ☎0864 (22) 3655

編集後記

編集者自身が採集と編集の二股をかけているうえに、原稿の集まり具合が今一つであったため、予定より約1ヶ月発行が遅れ、会員諸氏には御心配をおかけしましたが、何とか第120号を世に出すことができました。

今回の「すずむし」には異常型の短報がかなり目につきますが、こうした報告は1つ1つの積み重ねが重要です。お手元に記録を温存している方がおられましたら、多少古い記録でも結構ですので、是非写真を添えて発表されることをお勧めします。新分布地、食草・生態等の新知見等も同様です。皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

その他、御意見・御感想・御批判等何でも結構ですので事務局宛にお寄せください。そうすることが会員全員で創る内容に富んだ息の長い会誌創りに結びつくと考えておりますので、よろしくお願いします。(K・W)

す ず む し 120号

1985年4月30日発行

発行者 倉敷昆虫同好会 (〒710 倉敷市幸町 倉敷昆虫館内)

振替口座 岡山1-6927

印刷所 サンコー印刷(株) (総社市真壁871-2)